

ICT分野における技術戦略検討会（第5回）議事要旨

1 日時 平成30年3月5日（月）15：00～17：00

2 場所 総務省第1会議室（10階）

3 出席者

（1）構成員（敬称略）

長谷川座長、中尾座長代理、宇佐見構成員代理、関谷構成員、田中構成員、眞野構成員

（2）ゲストスピーカー

原井 国立研究開発法人情報通信研究機構 総合テストベッド研究開発推進センター
副研究開発推進センター長

中川 株式会社インテック 先端技術研究所 主席研究員

村岡 株式会社神戸デジタル・ラボ 取締役

（3）総務省

今林国際戦略局長、椿国際戦略局参事官、布施田技術政策課長、山碕国際政策課長、
田沼研究推進室長、杵浦技術政策課統括補佐

4 議事要旨

（1）情報通信技術をめぐる現状と課題

長谷川座長より、資料5-1に基づき、第5回検討会の議論のポイントについて、説明が行われた。

その後、原井氏より資料5-2に基づき、中川氏より資料5-3に基づき、村岡氏より資料5-4に基づき説明が行われた。その後、意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり。

【技術開発実証の場としてのテストベッドの活用】

- 破壊的なテクノロジーが創出された際に、テストベッドで実証できると良い。破壊的なテクノロジーを許すような環境か、それを推進する仕組みが必要。
- 実際のビジネスに基づいた課題と実際の新技术、そしてそれらを実証するテストベッドの3点が揃った環境があると、ビジネスに繋がる人材育成が可能になるのではないか。

- NICTのテストベッドで実証すれば世界中が認めてくれる、許容してくれるという環境があると良い。

【イノベーションを生み出すデジタル変革】

- イノベーションは技術やIoTの話だけではなく、それがどのように世の中を変えるかという俯瞰視点で捉えることが重要。
- 先に未来を見据えたビジョンを描き、そこから今進むべき道を考える「未来志向 (Visionary Thinking)」が重要。
- 国の会議は、テクノロジーの話が多い。ビジネスディスラプションの話をする機会を増やさないといけない。
- 必要条件と十分条件を分けて考えないといけない。ビジネスプランなどは、失敗しないために重要ではあるが、必要条件でしかない。
- 成功は偶発的なものが多い。偶発的な未来へどのように近づけることができるか、可能性を広げることができるかを検討すべき。オープンイノベーションなどで他と連携を持つこと、何をやりたいかというパッションを持つことは偶発性を高める。

【IoT 事業におけるプロトタイピング指向】

- 自分の思いをアプリケーションや自分のビジネスの中で発揮できるようなマインドチェンジを行い、お客さんの提案をただ引き受けるのではなく、専門家という立場から逆提案できるようになることが重要。
- ベンチャー育成プログラムなどで創出された大人には出せないアイデアに対し、営業支援などを行うことで課題解決し続けるサイクルが出来上がるのではないか。
- マネタイズがあるものに対して課題解決を繰り返さないとイテレーションを繰り返せない。しかし、マネタイズがないものについても、自社宣伝等の別の利益があれば、課題解決する価値はある。
- 目の前のお客さんや課題だけではなく、関連するビジネス展開のポテンシャルがどの程度あるかという意識を持つべき。
- 0から1をつくること、それから1から10や100を増やすことを全て一気通貫で実施することは難しい。0から1はベンチャー等が得意。また、ベンチャーは100が見えなくても10を見据えることが出来れば行動しやすい。